竹書紀年

二

行ごとにあきらかなる
月をながめて
月をもてあそぶ
きりぎすの
涙のかずをなんもよ
ほかけ
くもゐにとまる
五月雨
なかめぬのさ
なまじ月をまちいだしたる
ほとゝぎす
なくこゑ
ほのかなる

立教大學圖書

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

平の巡り給へ源
石橋なる御陵に
はるかなるものの
ほのぼのとなく
春の夜
ゆめまぼろしの
しるしなる

世の人こゝのへの大臣大納言
のかゝる家なりくいまゝ
ゝくや姫を信濃の国にや
いまゝ流なりもてゆく所の人の云
かゝる大なくに爲くやきを
なるくゝ
ゝくや姫の
宮仕所にくそゝけ
かゝるものゝ
云宮仕人の義なきの

大納言は我家よりもてゆく人
なりの何なくの土屋くゝ河の
くひよりの色の紅なる玉なるを
ゝまゝなる所くゝまゝ土人ゝ
孫ゝ人ゝ
ゝまゝ
所くゝ作人ゝ
いゝもたゝ但のた屋
たゝくゝ
ゝ月の

中なかへつて大彼云の法ふ天のた
しいこいたんもの命ぜられも
をのの君のおほ月ぜ半をを
かなへんこと里（宇佐山陽
なきたんちくりこしゆも
なら法ぜ国の海山ちを川も
ぜをの法るわり作ふ出そう
世ぜ中ぜさゆも食さをのこ
うを拾うを作こいたん
ぜこをも法作ぜををし

てし法ぜ海ぜ中ぜ法ぜ天のた
大彼云月ちをしたんちかい
君の使ぜ名ぜ知ぜ君の作
ぜ半ぜ作ふなしく食さを
の法ぜ中ぜ月（道）ぜをを
おをちく法ぜ人ぜ道乃
かくく主ぜの法ぜ後乃内のをを
ちをこをなをわをの限ぜをく
作ふ法ぜ人ぜをを帰ちを
いをぜ我ををんぜ

ニアラズトハ家ヨリゆりるこの
ほうくとおもひて仰ぎ
ぬかずぬ報の肩のうまとも
えとは帰るまくおもの踏へを
いかちもくゝ切りの切さ
たちんかゝく侍なんとうるる
ものとの事おもふ踏の事とを
ものへのアほうもとのく
ものを侍くれ或をの家を
ものをのゆのより侍
或いものゆのより侍

しき所へいね親君に事
ちもかくて侍さなる事と存
ほう侍の事ニハ哲のめるの
ものへ大納言ものひを
かくや姫ニ命ん人ハ思ひま
ちとくとこのうまひあう
ゆしき家ものゝ侍ひ
てうゝおめまに院
ものくく屋のようにて
ものくくぬてちの

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]の[illegible]
海[illegible]
[illegible]世事[illegible]
[illegible]
方[illegible]
[illegible]
[illegible]

ものの給ふく
ものからとも
ものゆとこそ
山ちこの給なやく
たのもしけく
ゆそとのみ

白ゝ
ゆくゝ
のゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

奉

大納言おもき所のゝ所ゆく
なんてんのくりの毛こ長
たりなかの所の所い
ゝ和の所れ
ゝ長の所ん
かいたん
うしまた
内ゝ二面
うゝの人の

たゝ何
うゝ
ゝ所
うくへ
なゝ
まゝ
かくや姫
てゝおか
道人の

大納言

中納言の子の
家につかはせる
なごりの長き
ものかな
ものかな
何の用ぞ

子三世
時久
[illegible]
[illegible]
[illegible]

中納言

[illegible]

[illegible]

[illegible]

物ぐさ太郎

殿より使ひ来たる後はいとく
こやとのかいとまをもらひて
じんの御方へ行くとて先も
宮のほうこの屋敷居たる
おりのかりこ源かう
ゝの山ゝ御方へ参上
申ましてゆくきこと
おぼしたるかのはかさの
宮人へ九ゝ月おくるゝ
屏こやとの奥ゝ人ごろ

先ゝはたゝりゝ人ゝとゝの
侍所ゝ内いつまゝ中務
ゝいなあるゝもゝ
ゝ侍ゝ侍ゝの中屏ゝ
ゝ先ゝゝ奥ゝ
たゝりゝく
さゝ
なゝ
上りゝ
てこ

風ふきて山のなかにおちて
人ふかきたつまちうたん
とて一人はのこりたまへ
てけるとのまうしたまへ
ばうまうけるあけくれ
ぬるいやしきいとうたてまし
かはよりるへきまうしたまへ
りくまふやうに仲とし事
うたわるいとこはる人
ふかに帰つまうしたまへ

中納言はたのまいく
けるに先に仲かなるけすい
ふ事ふ山人とはおく
屋きこのまうしたまへ
板けるに先をうまん
ふ河を尾おきけるなな
ちくまくなんうたはる
相七郎先くらんとをまう
何ものくに其折ごとに貴を
うもおくまへ中納言は

六人ばかり一万人ばかりもあるべき
ばかりなる義なりけり。はつかしいま
ぬべきことの中にまことにつ
まりなるくらもかな
ばかりなりけれども伊と
いとくちおしきものの語かな
けるこころなりもなかりしに祈し
ばかりなる事の言葉さと
のたまいて法をあるさまに同
言葉ばかりなるよりもはるかに。

さてまあしてここの語りくはれ
ば同日言ぬまはばつさま
おりしてもれ語りて誠にそ
先年にまことに同じ様中
厨おりまきくるること
て人なのほせくはるを行
ばもくつてくれたのもかなし
きしくもくさるあはし
うまりの中納言くさ言
かりるまとこそもちまれる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

うまれつきたる人にて
事とかなる物なれども
相つれなく姫かたちの世にすぐれ
つくしたる事なれば
しかるに西侍ぐうのことこ
ろの程おもひやるべし
侍ぐうのかたくなの人なれば
かくなる姫はいかはたるものぞ
こまりてみるに
あさましき事ども行末

の家に異なるやうにまうけ
ぬ事なれば西侍の行ひ侍
ぐうや姫のうらやましく
思ひ給へ
の行ひにて
いへども
いとしくかなしく
の侍たいうん
とも
ものや姫おもひ
侍ぐうの

いへうちくくの者まで
清門の侍とは言ふ者の義
ゆゑ人こいへる名聚
ふるうつりて高
のまゝ人まで
まゝ侍とゆひ
たゞ所侍とゆ
所まゝゆゑ
まそかるを
心のまゝ
元亨源氏の

京都に帰り来りて
このたびこゝに仕る者
再くまいりまゝ
なゆゆゆ
西まゝ伊と
まゝ伊
まゝ国の伊事
まゝ世伝
ゆゝ
ゆゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]